

〔梅と美術展によせて〕

渡辺始興筆「松梅に鶴図」 (「四季花鳥図教絵貼屏風」の内)をめぐる

屏風は木枠に紙や絹を貼った面を前後に開閉できるように紙の蝶番でつないだものです。風や人目をさえぎって、場所を区画する室内調度ですが、屋外で使用されることもあります。屏風の面を扇と呼び、面を曲、屏風が一つであれば隻、対であれば双と数えます。形状や大きさは使用する場所や用途に応じて様々です。特殊なものには、茶湯の風炉先屏風、雛飾の雛屏風などがあります。大きさは建物の寸法が基準になり、縦が六尺の本間屏風から小さくなるに従って中屏風、小屏風と呼びますが、それほど定まっていません。

特別な場所を設定する屏風には、その場所にふさわしい絵画が描かれます。例えば、儀式のために特別な屏風が新調され、屏風が置かれることで、日常的な空間が儀式にふさわしい場所へ変るわけです。屏風は絵師にとっても力量が試される分野であり、多くの名品が遺されています。やがて絵画鑑賞の普及によって、屏風が絵画の画面形式として自立し、しだいに作品の鑑賞を目的に描かれる傾向が強くなります。また、大きな画面が折りたためるため、いくつかの絵画を貼った屏風や襖絵を改装した屏風もあります。この場合、絵画の展示や収納の役割を果たしています。

渡辺始興の描く「四季花鳥図教絵貼屏風」は、六曲一双の一扇ごとに一図づつ、合計十二図の絵画を貼る押絵貼屏風です。この画面形式を活用すると、絵画の連作が可能になります。この作品では各図に写生をもとに描いた草花と鳥や昆虫を組み合わせ、十二図を通して四季を彩る自然の光景が観賞できます。四季図は祝事に用いられることが多く、この作品にも慶賀の意味が込められていると思わ

れます。屏風の両端は縁をとるため、左右の隻とも第一扇と第六扇の図は少し横幅が狭くなり、六曲一双の両端、右隻の第一扇の第一図と左隻の第六扇の第十二図に落款を記しています。

新年に当たる第一図は松と梅の木を背景にして一羽の鶴が静かに立っている「松梅に鶴図」です。この画題には明らかに吉祥の意味が含まれます。この他に、吉祥的な画題では、第五図の「竹流水に亀図」が上げられ、両図を合わせれば、「松竹梅に鶴亀図」という典型的な吉祥図になります。ただし、吉祥的な画題の鶴では、体が白く頭頂部が赤い丹頂鶴が一般的によく描かれますが、この鶴は丹頂鶴よりも体の小さな鍋鶴です。画面の鶴は斜め後ろを向いて首をまわし、後方を振り返っています。真直ぐに伸びる左足と軽く浮かした右足、すっきりとした菱形に近い形状の胴部は鶴の姿や動作の特徴を捉えながら優雅な美しさが備わるように、比例や均衡が造形的に整えられています。始興は大覚寺正寝殿の杉戸絵に丹頂鶴と真鶴を描き、丹頂鶴、真鶴、鍋鶴の三種の鶴を描いた屏風を残しており、丹頂鶴が不得意だったわけではありません。鍋鶴は写生的な表現、画面での大きさ、他の図との関連など、絵画表現上、この屏風の第一図に最もふさわしい鶴として選択されたと思われるます。

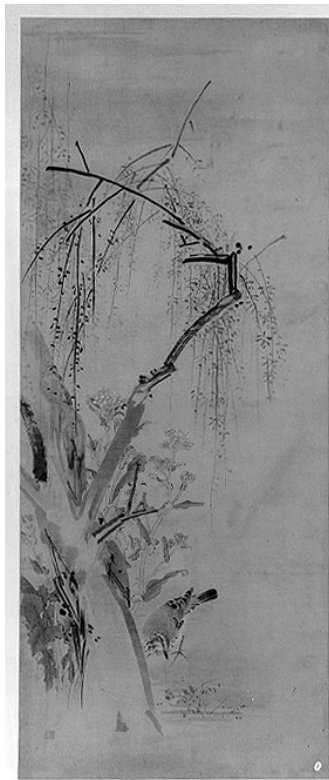
この鶴の姿を際立たすように、背景の松は淡墨を基調にした水墨の階調だけで描き、枝と松穂の濃墨によって、葉叢の立体感や屈曲する枝の動きを効果的に表現しています。梅には動勢表現をより積極的に試みています。淡墨の枝はまるで書の運筆のようになり、紅白の花を付ける濃墨の小枝は直線的に伸び、金属のように無機的

な印象を与えます。枝と小枝の線描はかなり異なりますが、枝先では小枝の上に枝を重ね、両方の特性を強調しています。異質な表現を対照させる構成感覚は、中央で交叉する梅の枝と鶴の胴部の関係にも認められ、この作品の明るく澄んだ画趣と深く結びついています。

「松梅に鶴図」では、画面の左端に余白が意識的に残されていることも重要です。「四季花鳥図教絵貼屏風」では十二図を六組の対幅のように構成しています。この余白によって第二図の「柳菜の花に類白図」と対の関係になるように、左側の画面空間を半ば開放しています。「柳菜の花に類白図」では、新芽をつけた柳の背後に菜の花が

咲き、頬白が地に降りて餌を啄ばむ光景を描いていますが、両図は視点の距離や角度、鶴と頬白などのスケールを合わせるだけでなく、構図の要となる松と柳の幹、梅と菜の花、鶴の胸から首にかけての輪郭と張り出す柳の枝を緊密に対応させています。この二図を見れば、両面構成において、始興がいかに明晰な秩序を求めているかがわかります。この屏風が置かれた場所は不明ですが、展示環境が絵画表現に反映されているとすれば、清浄な明るい空間ではないかと思われます。「松梅に鶴図」は押絵貼屏風という画面形式と絵画表現の関係を考える上でも興味深い作品です。(中部義)

第二図(柳菜の花に類白図)



第一図(松梅に鶴図)



季刊 美のたより No.149

平成17年1月5日

発行 大和文華館